表 - 5 「触れ合い活動の場」に対する一般的な環境保全措置の例

(1) 触れ合い活動の場における存在・供用影響に関する保全措置

活動特性に対する保全措置の例		
直接改変に対する保全措置	活動を支える環境に対する保全措置	
回避・低減措置	<p align="center">立地・配置に関する措置</p> <p>価値認識の高い活動に利用されている活動区への立地を避ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 価値認識の高い活動区への改変面積を最小にする ・ 活動において核となる活動区の改変面積を最小にする 	<p>活動の資源性を支える活動区への立地を避ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 野生生物の生息地への改変面積を最小にする ・ 活動を支える資源の供給源となる活動区の改変面積を最小化する <p>活動の快適性を支える活動区への立地を避ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者に快適性を与える静けさを有する活動区の騒音を防ぐ <p>活動の利便性を支える活動区への立地を避ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動のしやすさを提供する活動区への改変面積を最小化する ・ 利便施設等がある活動区の改変を避ける ・ 集合場所等に利用されている活動区への立地を避ける
	<p align="center">規模・構造に関する措置</p> <p>価値認識の高い活動に利用されている活動区の改変を避けるよう、施設の規模・構造の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路の橋梁化、施設の地下化等により、活動の場の空間的分断を避ける ・ 施設の規模の縮小を図り、改変面積を最小化する 	<p>活動を支える資源性を保つよう、施設の規模・構造の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 野生生物の生息空間と共生する施設構造により、生息を維持する ・ 自然空間をとりこんだ施設構造とし、資源性を維持する ・ 建物の高度制限等により日照を保つ <p>活動を支える快適性を保つよう、施設の規模・構造の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同質の環境をもつ活動区の連続性を確保する ・ 騒音や光害等の出にくい構造とし、快適性を維持する <p>活動を支える利便性を保つよう、施設の規模・構造の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集合場所や利用施設などをとりこんだ施設構造とし、利便性を妨げない
	<p align="center">デザイン・設備に関する措置</p>	<p>資源性、快適さを保つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修景のための植栽を行う ・ 光害防止のため、フェンスを設けたり、照明方法の配慮を行う ・ 活動の場と施設の間には森等による緩衝緑地を設けたり、低騒音型の設備の導入により、騒音を防止する ・ 悪臭防止装置を整備する ・ 水質汚濁等の環境影響の緩和措置を講ずる <p>利便性を維持する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状に変更があった場合はトイレ、休憩所等の利便施設をデザインに盛り込み、利便性を維持する
	<p align="center">管理・運営に関する措置</p>	<p>資源性、快適さを保つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業地内の車輛通行を一部制限する ・ トイレの清掃などにより快適さを保つ ・ ゴミの処理などにより、快適さを保つ ・ 水量の維持のため、放水を行う <p>利便性を維持する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の場に関する情報提供を行い、事業影響による利用の低下を防ぐ ・ インタープリテーション付きプログラムの整備により、事業による利用の低下を防ぐ
	<p align="center">代償措置</p>	<p>同様の活動を維持しうる場を代替地として確保する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 失われる活動を実践しうる場を新たな活動の場として確保する <p>異なる場所に資源を移動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の核となる活動区が有する資源、利便施設を移動させる <p>活動の場を復元する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 樹林の復元により野生動物の生息地を回復する ・ 未利用地や放棄地の整備により、活動を実践しうる場を確保する ・ 残された場所の環境を改善することにより、改変区域で行われていた活動を誘致する

(1) 触れ合い活動の場における存在・供用影響に関する保全措置（続）

回避・低減措置	アクセス特性に対する保全措置の例
	立地・配置に関する措置
	立地・配置の変更によりアクセスルートの改変を避ける ・施設予定地変更によりアクセスルートを妨げない ・ルートの地下化によりアクセスルートを妨げない
	規模・構造に関する措置
	規模・構造の変更により、アクセスルートの改変を避ける
	デザイン・設備に関する措置
	歩車道分離 ・歩道の確保、周辺環境の維持により、アクセスの快適性、安全性を確保する
代償措置	管理・運営に関する措置
	車両通行時間帯の制限を行う
	新たなアクセスルートを整備する ・バイパスを整備する

(2) 触れ合い活動の場における工事影響に関する保全措置

	活動特性に対する保全措置の例	アクセス特性に対する保全措置の例
工事工法	改変面積を小さくする工法を採用する ・工事のための土地改変面積を小さくする ・資材の散乱、土砂の流出などを少なくする 活動を支える環境への影響の小さい工法を選択する ・光の漏れなどの少ない工法を選択する ・工事による騒音の少ない工法を選択する ・悪臭の発生を抑える工法を選択する ・水量や水質の変化に影響の少ない工法を選択する ・仮設池を設け、水生生物等の一時避難を行う ・植物などの一時避難を行う	アクセスルートにおける利用者の快適性や安全性に及ぼす影響の小さい工法を選択する
工事機械の種類	活動を支える環境への影響の小さい工事機械を選択する ・騒音の少ない工事機械を選択する ・大気汚染等の影響の少ない工事機械を選択する	アクセスルートにおける利用者の快適性や安全性に及ぼす影響の小さい工事機械を選択する
工事工程	活動を支える環境への影響を最低限に抑える ・例えば観察対象である野鳥の繁殖への影響を避けるなど、資源の維持上、工事を避けるべき時期、時間帯に配慮する 造成地の立入禁止期間をできるだけ短くする 活動への影響を最低限に抑える ・活動が行われている時期、曜日、時間帯を避ける	活動アクセスを妨げないよう配慮する ・活動が行われている時期、曜日、時間帯における工事を避ける
工事車輛の運行	活動を支える環境への影響を最低限に抑える ・資源の維持上、避けるべき時期、時間帯に配慮する 活動への影響を最低限に抑える ・活動が行われている時期、曜日、時間帯を避ける	活動アクセスを妨げないよう配慮する ・活動が行われている時期、曜日、時間帯における工事を避ける